

は逆に軟化症群では有意に低値を示し、粗鬆症群では高値を示した。また大腿骨の摂取率と全身残留率は高い相関($r=0.86$)を認めた。骨 X 線像は各疾患群で典型的な所見を呈した。

21. 骨格筋病変における骨スキンの有用性について

上野 恭一 (石川県立中央病院・放)
内山 伸二 (同・神内)

骨スキンのにて発見された多発性筋炎の一例を以前報告したが、本邦では骨格筋病変の骨スキンの報告は乏しい。骨格筋病変10例(多発性筋炎6例、出血性梗塞1例、その他3疾患各1例)について骨スキン、 ^{67}Ga スキン、 $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$ による SPECT (2例のみ)について報告した。(1)骨スキンは骨格筋病変の activity・分布を知るのにきわめて有用。(2) ^{67}Ga スキンは、骨スキン所見との不一致がかなり多い。(集積機序異なる。)伴用好しい。(3) $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$ の SPECT は、あまり役立たないと推測した。(4)骨格筋病変における骨スキンはきわめて役立つにもかかわらず、あまり有効に利用されてはいない。もっと積極的利用をおすすめしたい。(5)大腎筋の出血性梗塞の骨スキン所見は、まだ文献的に報告されていない。

22. 骨シンチグラフィで肺野に集積をみた1例について

中島真奈美 竹内 昭 伊藤 毅
外山 宏 河村 敏紀 斉藤 隆司
安野 泰史 花井 直子 真下 伸一
片田 和広 古賀 佑彦(藤田学園・医・放)
鳥飼 勝隆 (同・内)

悪性関節リウマチの一例で、血清 Ca 値が正常範囲内であったにもかかわらず、剖検で肺胞壁、中小の筋性動脈の中膜に石灰沈着を認めた症例を経験した。臨床的および単純 X 線像にて、明らかな肺の変化をとらえる以前に、骨、Ga 両シンチで肺野にびまん性の集積像を得、その4か月半後に、患者は呼吸不全で死亡した。以上より、骨シンチは肺の石灰化像をとらえるのに鋭敏な検査であり、肺野にびまん性に集積するような例の予後は、あまり良好でないと推測された。

23. 転移性骨腫瘍における骨シンチグラムと MRI の対比検討

玉木 恒男 富田 博司 野村 義紀
渡辺 成行 黒堅 賢仁 飯田 昭彦
田内 圭子 松尾 導昌 河野 通雄
(名市大・放)
渡辺 賢一 (成田記念病院・放)

悪性腫瘍の骨転移巣の検索はその治療法の決定と予後の推定に重要な情報を提供する。そこで骨シンチグラムと MRI との併用による骨転移巣の検索を試みた。

$^{99\text{m}}\text{Tc-HMDP}$ による骨シンチグラムで全身像(正面、背面)、多方向の spot 像を撮像し、異常集積を認めた部位を MRI で撮像した。

骨シンチグラムで異常集積を認めた部位に MRI で腫瘍を認めた。

悪性腫瘍の骨転移巣の検索として、まず骨シンチグラムにより全身を check し、異常集積部を MRI で精検する方法は有用と考える。